

平成 25 年度 九州大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分  
 文系 (文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部 (経済・経営))

- 1 一辺の長さが 1 の正方形  $OABC$  を底面とし,  $OP = AP = BP = CP$  をみたす点  $P$  を頂点とする四角錐  $POABC$  がある。辺  $AP$  を  $1:3$  に内分する点を  $D$ , 辺  $CP$  の中点を  $E$ , 辺  $BC$  を  $t:(1-t)$  に内分する点を  $Q$  とする。このとき, 以下の問いに答えよ。

- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OD}$  と  $\overrightarrow{OE}$  を,  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OC}$ ,  $\overrightarrow{OP}$  を用いて表せ。
- (2) ベクトル  $\overrightarrow{PQ}$  を,  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OC}$ ,  $\overrightarrow{OP}$  と  $t$  を用いて表せ。
- (3) 内積  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OP}$  の値を求めよ。
- (4) 直線  $PQ$  が平面  $ODE$  に垂直であるとき,  $t$  の値および線分  $OP$  の長さを求めよ。

- 2 座標平面上で, 次の連立不等式の表す領域を  $D$  とする。

$$x + 2y \leq 5, \quad 3x + y \leq 8, \quad -2x - y \leq 4, \quad -x - 4y \leq 7$$

点  $P(x, y)$  が領域  $D$  内を動くとき,  $x + y$  の値が最大となる点を  $Q$  とし, 最小となる点を  $R$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 点  $Q$  および点  $R$  の座標を求めよ。
- (2)  $a > 0$  かつ  $b > 0$  とする。点  $P(x, y)$  が領域  $D$  内を動くとき,  $ax + by$  が点  $Q$  でのみ最大値をとり, 点  $R$  でのみ最小値をとるとする。このとき,  $\frac{a}{b}$  の値の範囲を求めよ。

3 横一列に並んだ 6 枚の硬貨に対して、以下の操作 L と操作 R を考える。

L: さいころを投げて、出た目と同じ枚数だけ左端から順に硬貨の表と裏を反転する。

R: さいころを投げて、出た目と同じ枚数だけ右端から順に硬貨の表と裏を反転する。

たとえば、表表裏表裏表 と並んだ状態で操作 L を行うときに、3 の目が出た場合は、裏裏表表裏裏 となる。

以下、「最初の状態」とは硬貨が 6 枚とも表であることとする。

- (1) 最初の状態から操作 L を 2 回続けて行うとき、表が 1 枚となる確率を求めよ。
- (2) 最初の状態から L, R の順に操作を行うとき、表の枚数の期待値を求めよ。
- (3) 最初の状態から L, R, L の順に操作を行うとき、すべての硬貨が表となる確率を求めよ。

4 座標平面上の円  $(x - 1)^2 + (y - 1)^2 = 2$  を  $C$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 直線  $y = x - 2$  は円  $C$  に接することを示せ。また、接点の座標も求めよ。
- (2) 円  $C$  と放物線  $y = \frac{1}{4}x^2 - 1$  の共有点の座標をすべて求めよ。
- (3) 不等式  $y \geq \frac{1}{4}x^2 - 1$  の表す領域を  $D$  とする。また、不等式  $|x| + |y| \leq 2$  の表す領域を  $A$  とし、不等式  $(|x| - 1)^2 + (y - 1)^2 \leq 2$  の表す領域を  $B$  とする。そして、和集合  $A \cup B$ 、すなわち領域  $A$  と領域  $B$  をあわせた領域を  $E$  とする。このとき、領域  $D$  と領域  $E$  の共通部分  $D \cap E$  を図示し、さらに、その面積を求めよ。

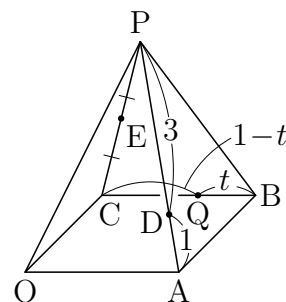
## 解答例

- 1 (1) D は線分 AP を 1 : 3 に内分する点であるから

$$\vec{OD} = \frac{3\vec{OA} + \vec{OP}}{1+3} = \frac{3}{4}\vec{OA} + \frac{1}{4}\vec{OP}$$

E は線分 CP の中点であるから

$$\vec{OE} = \frac{\vec{OC} + \vec{OP}}{2} = \frac{1}{2}\vec{OC} + \frac{1}{2}\vec{OP}$$



$$(2) \vec{OQ} = \vec{OC} + \vec{CQ} = \vec{OC} + (1-t)\vec{OA}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \vec{PQ} &= \vec{OQ} - \vec{OP} = \{\vec{OC} + (1-t)\vec{OA}\} - \vec{OP} \\ &= (1-t)\vec{OA} + \vec{OC} - \vec{OP} \end{aligned}$$

- (3) OP = AP であるから

$$|\vec{OP}| \cos \angle POA = \frac{1}{2}|\vec{OA}| = \frac{1}{2} \cdot 1 = \frac{1}{2}$$

$$\text{よって } \vec{OA} \cdot \vec{OP} = |\vec{OA}| |\vec{OP}| \cos \angle POA = 1 \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

- (4) (3) と同様にして  $\vec{OC} \cdot \vec{OP} = \frac{1}{2}$

$|\vec{OA}| = |\vec{OC}| = 1$ ,  $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = 0$ ,  $\vec{OD} \perp \vec{PQ}$ ,  $\vec{OE} \perp \vec{PQ}$  であるから

$$\begin{aligned} 4\vec{OD} \cdot \vec{PQ} &= (3\vec{OA} + \vec{OP}) \cdot \{(1-t)\vec{OA} + \vec{OC} - \vec{OP}\} \\ &= 3(1-t)|\vec{OA}|^2 + 3\vec{OA} \cdot \vec{OC} - (t+2)\vec{OA} \cdot \vec{OP} + \vec{OC} \cdot \vec{OP} - |\vec{OP}|^2 \\ &= \frac{5}{2} - \frac{7}{2}t - |\vec{OP}|^2 = 0 \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 2\vec{OE} \cdot \vec{PQ} &= (\vec{OC} + \vec{OP}) \cdot \{(1-t)\vec{OA} + \vec{OC} - \vec{OP}\} \\ &= (1-t)\vec{OA} \cdot \vec{OC} + |\vec{OC}|^2 + (1-t)\vec{OA} \cdot \vec{OP} - |\vec{OP}|^2 \\ &= \frac{3}{2} - \frac{1}{2}t - |\vec{OP}|^2 = 0 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より } t = \frac{1}{3}, |\vec{OP}|^2 = \frac{4}{3} \quad \text{すなわち } |\vec{OP}| = \frac{2\sqrt{3}}{3}$$

- 2 (1)  $x+2y=5 \cdots \textcircled{1}$ ,  $3x+y=8 \cdots \textcircled{2}$ ,  $-2x-y=4 \cdots \textcircled{3}$ ,  $-x-4y=7 \cdots \textcircled{4}$

とおく.  $D$ の表す領域は, 図の斜線部分で, 境界線を含む. 直線  $x+y=k$  を  $l$  とする.  $l$  は傾き  $-1$  の直線で,  $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  の直線の傾きは, それぞれ  $-\frac{1}{2}$ ,  $-3$  であり,

$$-3 < -1 < -\frac{1}{2}$$

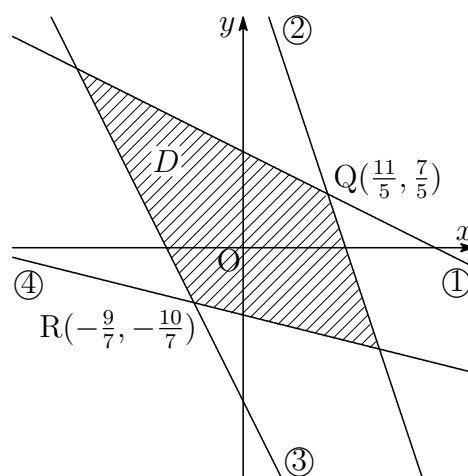
ゆえに,  $D$  内の点  $\left(\frac{11}{5}, \frac{7}{5}\right)$  で,  $k$  は最大となる.

また,  $\textcircled{3}$ ,  $\textcircled{4}$  の傾きは, それぞれ  $-2$ ,  $-\frac{1}{3}$  であり,

$$-2 < -1 < -\frac{1}{3}$$

ゆえに,  $D$  内の点  $\left(-\frac{9}{7}, -\frac{10}{7}\right)$  で,  $k$  は最小となる.

よって  $Q\left(\frac{11}{5}, \frac{7}{5}\right)$ ,  $R\left(-\frac{9}{7}, -\frac{10}{7}\right)$



- (2) 直線  $ax+by=k'$  を  $l'$  とする.

$l'$  は傾き  $-\frac{a}{b}$ , 切片  $\frac{k'}{b}$  の直線である.  $b > 0$  であるから,  $k'$  が最大・最小となるのは, それぞれ  $\frac{k'}{b}$  が最大・最小となるときである.

$k'$  が  $Q$  で最大値をとるとき,  $l'$  と  $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  の傾きから

$$-3 < -\frac{a}{b} < -\frac{1}{2} \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{2} < \frac{a}{b} < 3 \quad \cdots (*)$$

$k'$  が  $R$  で最小値をとるとき,  $l'$  と  $\textcircled{3}$ ,  $\textcircled{4}$  の傾きから

$$-2 < -\frac{a}{b} < -\frac{1}{4} \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{4} < \frac{a}{b} < 2 \quad \cdots (**)$$

$a > 0$ ,  $b > 0$  より,  $\frac{a}{b}$  の符号に注意し,  $(*)$ ,  $(**)$  の共通範囲を求めて

$$\frac{1}{2} < \frac{a}{b} < 2$$

- 3 (1) 1回目, 2回目に出た目を, それぞれ  $i, j$  とすると,  $|i - j|$  枚の硬貨は1回だけ反転し, それ以外の硬貨は反転しないか, 2回反転する.  
したがって, この操作による表の枚数は  $6 - |i - j|$  である.  
ゆえに表が1枚となるとき

$$6 - |i - j| = 1 \quad \text{すなわち} \quad |i - j| = 5$$

これをみたすのは,  $(i, j) = (1, 6), (6, 1)$  の2組である.

$$\text{よって, 求める確率は} \quad \frac{2}{6^2} = \frac{1}{18}$$

- (2) LおよびRにおいて出た目を, それぞれ  $i, j$  とし, これらの操作による表の枚数を  $LR(i, j)$  とする.

i)  $2 \leq i + j \leq 6$  のとき,  $(i + j)$  枚の硬貨は1回だけ反転し, 残りの硬貨は反転しないから  $LR(i, j) = 6 - (i + j)$

ii)  $7 \leq i + j \leq 12$  のとき,  $(i + j - 6)$  枚の硬貨は2回反転し, 残りの硬貨は1回だけ反転するから  $LR(i, j) = i + j - 6$

i), ii) より,  $LR(i, j) = |i + j - 6|$  となり, 求める期待値は

$$\begin{aligned} & \frac{1}{6^2} \sum_{1 \leq i, j \leq 6} LR(i, j) = \frac{1}{36} \sum_{1 \leq i, j \leq 6} |i + j - 6| = \frac{1}{36} \sum_{1 \leq i, j \leq 6} |j - (7 - i) + 1| \\ &= \frac{1}{36} \sum_{1 \leq i, j \leq 6} |j - i + 1| \\ &= \frac{1}{36} \left( \sum_{1 \leq i < j \leq 6} |j - i + 1| + \sum_{1 \leq j < i \leq 6} |j - i + 1| + \sum_{1 \leq i = j \leq 6} |j - i + 1| \right) \\ &= \frac{1}{36} \left\{ \sum_{1 \leq i < j \leq 6} (j - i + 1) + \sum_{1 \leq j < i \leq 6} (i - j - 1) + 6 \right\} \\ &= \frac{1}{36} \left\{ \sum_{1 \leq i < j \leq 6} (j - i + 1) + \sum_{1 \leq i < j \leq 6} (j - i - 1) + 6 \right\} \\ &= \frac{1}{36} \left\{ \sum_{1 \leq i < j \leq 6} (2j - 2i) + 6 \right\} = \frac{1}{36} \sum_{j=2}^6 \sum_{i=1}^{j-1} (2j - 2i) + \frac{1}{6} \\ &= \frac{1}{36} \sum_{j=2}^6 \{2j(j-1) - j(j-1)\} + \frac{1}{6} \\ &= \frac{1}{36} \sum_{j=1}^6 (j^2 - j) + \frac{1}{6} = \frac{1}{36} \left( \frac{1}{6} \cdot 6 \cdot 7 \cdot 13 - \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 7 \right) + \frac{1}{6} = \frac{19}{9} \end{aligned}$$

別解  $LR(i, j) = |i + j - 6|$  の値は、右の表のようになる。したがって、求める期待値は

$$\frac{1 \cdot 10 + 2 \cdot 8 + 3 \cdot 6 + 4 \cdot 4 + 5 \cdot 2 + 6}{6^2} = \frac{76}{36} = \frac{19}{9}$$

| $j \backslash i$ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1                | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 2                | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 3                | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 4                | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5                | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

(3) この操作により、すべての硬貨が表となるのは、L, R の操作が終わった時点で、次の (a) ~ (f) の場合である。

- (a) 裏表表表表表      (b) 裏裏表表表表      (c) 裏裏裏表表表  
 (d) 裏裏裏裏表表      (e) 裏裏裏裏裏表      (f) 裏裏裏裏裏裏

最初の L, R の操作で出た目をそれぞれ  $i, j$  とする。

(a) ~ (e) となる  $(i, j)$  の組は、順次、

$$(6, 5), (6, 4), (6, 3), (6, 2), (6, 1)$$

(f) となる  $(i, j)$  の組は、 $i + j = 6$  をみたす 5 通り。

(a) ~ (f) について、最後の L の操作における目の出方は、順次、1 ~ 6 である。よって、求める確率は

$$\frac{5 + 5}{6^3} = \frac{5}{108}$$

4 (1)  $(x - 1)^2 + (y - 1)^2 = 2$  と  $y = x - 2$  から  $y$  を消去すると

$$(x - 1)^2 + \{(x - 2) - 1\}^2 = 2 \quad \text{すなわち} \quad (x - 2)^2 = 0$$

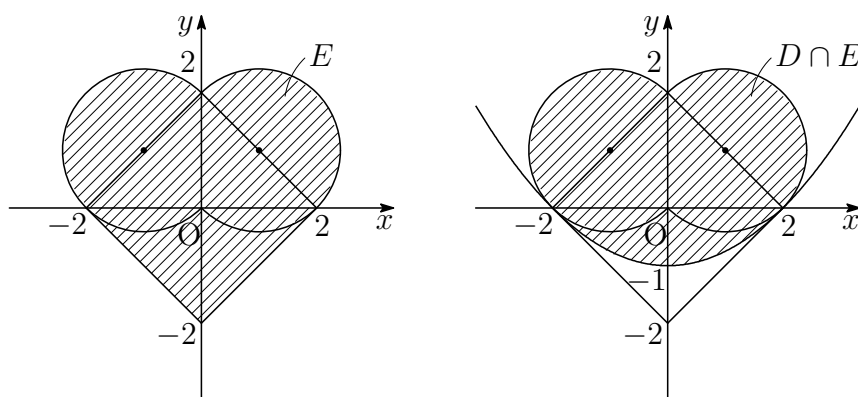
ゆえに、 $x = 2$  で重解をもち、このとき  $y = x - 2$  より  $y = 0$  によって、直線  $y = x - 2$  は円  $C$  に点  $(2, 0)$  で接する。

(2)  $(x - 1)^2 + (y - 1)^2 = 2$  と  $y = \frac{1}{4}x^2 - 1$  から  $y$  を消去し、整理すると

$$x^4 - 32x + 48 = 0 \quad \text{すなわち} \quad (x - 2)^2 \{(x + 2)^2 + 8\} = 0$$

ゆえに、 $x = 2$  で 2 重解をもち、このとき  $y = \frac{1}{4}x^2 - 1$  より  $y = 0$  によって、求める共有点の座標は  $(2, 0)$

- (3)  $x \geq 0, y \geq 0$  のとき,  $A$  の表す領域は,  $x$  軸,  $y$  軸および直線  $x + y = 2$  で囲まれた図形の内部および境界線である. このとき,  $(x, y)$  に対して,  $x$  軸,  $y$  軸, 原点に関して, それぞれ対称な点  $(x, -y)$ ,  $(-x, y)$ ,  $(-x, -y)$  も不等式  $|x| + |y| \leq 2$  をみたす. したがって,  $A$  の表す領域は, 4点  $(2, 0)$ ,  $(0, 2)$ ,  $(-2, 0)$ ,  $(0, -2)$  を頂点とする四角形の内部およびその周上である.  $x \geq 0$  のとき,  $B$  の表す領域は,  $y$  軸の右側で, 円  $(x - 1)^2 + (y - 1)^2 = 2$  の内部とその境界線である. このとき,  $(x, y)$  に対して,  $y$  軸と対称な点  $(-x, y)$  も不等式  $(|x| - 1)^2 + (y - 1)^2 \leq 2$  をみたす. したがって,  $A \cup B$  の表す領域  $E$  および  $D \cap E$  の表す領域は, 次のようになる. ただし, 境界線を含む.



3点  $(2, 0)$ ,  $(0, 2)$ ,  $(-2, 0)$  を頂点とする三角形の面積は

$$\frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 2 = 4$$

放物線  $y = \frac{1}{4}x^2 - 1$  の  $x$  軸の下側の部分の面積は

$$-\int_{-2}^2 \left( \frac{1}{4}x^2 - 1 \right) dx = \frac{8}{3}$$

2点  $(2, 0)$ ,  $(0, 2)$  を直径とする円の半径は  $\sqrt{2}$  である.

よって, 求める面積は

$$4 + \frac{8}{3} + \pi(\sqrt{2})^2 = \frac{20}{3} + 2\pi$$